

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 崔博憲

提出年月日 2012 年 4 月 3 日

【プロジェクト名】

和文 地域社会における在日外国人の多様化とネットワーク変容に関する実証的研究

英文 An Empirical Study on the Intimate Sphere of Migrant Foreign People and Changes of the Regional Societies in Japan

【メンバー構成】

研究代表者 崔博憲

幹事 中田英樹

メンバー 飯田悠哉、川越道子、坂梨健太、瀬戸徐映里奈

【ねらいと目的】（600 字程度）

これまで当ユニットは、1990 年の入管法改正以降、新たに日本社会において「単純労働」の担い手となった外国人を対象に調査研究を重ね、国家（＝公共圏）が認める在留資格ごとに就労上の権利、生活の在り方が異なっていることや外国人労働者の地域的・業態的な「棲み分け」が進行していることなどを明らかにしてきた。

こうした知見を踏まえ、2011 年度は、1980 年代以降日本にやって来た在日外国人たちの「棲み分け」が、国内の各地域でどのように進行しているのかを明らかにすることに主眼を置いた調査研究を行った。それによりグローバル化が進むなかで再編される日本における周辺労働力市場の現在のありようを明らかにできると考えたらからである。また、「棲み分け」という展開のなかで、かれらが、労働や地域といったつながりを通じて形成する「親密」なネットワークがどのようなものであり、それがいかに機能している／していないのかという点にも注目した。

具体的には、製造業や農業などに従事する日系人と外国人技能実習生に加え、インドシナ難民を主な研究対象とした。当初設定した調査地および調査対象は、滋賀県東近江市、群馬県大泉町、兵庫県神戸市・姫路市、香川県坂出市、長野県川上村、熊本県玉名市のブラジル、ペルー、ベトナム、タイ、ラオス、フィリピン、中国出身者である。

また、調査活動以外にも、外国人労働者問題にかかわる研究者や活動家などとともに研究会や勉強会を行い、日本で働く外国人労働者たちの現状を多様な立場や視点から掘り下げて分析・考察することに努めた。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

○主な研究会・ワークショップ

①7月8日「いま、日本で外国人を生きるということ」

報告者：青山薫（神戸大学国際文化学部）「日本における外国人セックス・ワーカー」

川越道子（大阪大学招聘研究員）「インドシナ難民の現在」

中田英樹（明治学院大学国際平和研究所）「外国人労働者問題とは何か」

松平尚也（百姓・AMネット代表理事）「農業の現場から」

コメンテーター：崎山政毅（立命館大学文学部）

堀田義太郎（立命館大学衣笠総合研究機構 PD フェロー）

司会：崔博憲（京都大学グローバル COE 研究員）

②8月30日

報告者：村川淳（京都大学農学研究科）「群馬県大泉町のペルー人の定住動向」

坂梨健太（京都大学農学研究科）「熊本県の施設園芸農家の中国人実習生の受け入れの現状」

コメンテーター・司会：崔博憲（京都大学グローバル COE 研究員）

③11月25日

報告者：飯田悠哉「農村において「外国人技能実習生」と「フリーター」が交錯する現状について」

コメンテーター：中田英樹（明治大学国際平和研究所）

○主な調査や活動（研究テーマに関するもの）

飯田悠哉：2011年7月9日～9月9日、長野県南佐久郡、高原野菜農場で働くフィリピン人技能実習生の参与観察

川越道子：2011年12月17日～18日、東京都（明治学院大学）、移民政策関連シンポジウム参加など

崔博憲：2011年7月15日～18日、香川県坂出市・広島県安芸高田市、タイ・ラオス出身の外国人技能実習生の労働実態調査

2012年2月6日～7日、兵庫県神戸市、兵庫・岡山での外国人技能実習生を支援する地域労組への聞き取り調査

2012年2月19日～21日、香川県坂出市など、タイ・ラオス出身の外国人技能実習生の労働実態調査

2012年2月24日～3月4日、タイ国、外国人技能実習生のリクルートの実態および帰国者などへの聞き取り調査

坂梨健太：2011年9月5日～7日、熊本県玉名市、中国人技能実習生受入農家への聞き取り調査など

2012年1月5日、熊本県熊本市、外国人技能実習生の一次受入機関の社団法人熊本県国際農業交流協会への聞き取り

2012年1月10日～11日、熊本県熊本市・玉名市、ラオス人・中国人技能実習生受入農家への聞き取り

2012年1月20日、福井県福井市、外国人研修生権利ネットワーク福井への

聞き取り

瀬戸徐映里奈：2011年6月23日～28日、神奈川県大和市・横浜市、エスニック・ビジネスに関する聞き取り調査・資料収集

2011年10月11日～21日、ベトナム・ホーチミン、日本定住ベトナム難民と故郷との紐帯に関する調査

2012年1月28日～2月2日、神奈川県大和市、インドシナ難民の集住地区のエスニック食材店の調査

2012年2月19日・20日、神奈川県大和市、インドシナ難民への聞き取り調査

中田英樹：明治学院大学国際平和研究所のスタッフとして2011年12月17日に行われたシンポジウム「包括的移民政策の構築へ向けたロードマップ」などの企画・運営。「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」（移住連）の主催するさまざまなイベントに参加。

村川淳：2012年3月30日～31日、群馬県大泉町、日系ペルー人の実態調査

【成果の概要】（800字程度）

本年度の成果は主に3点あげられる。

1つは、各メンバーが国内外での調査研究を行い、日本の外国人の労働や生活実態に関して、さまざまな情報や知見を得ることができたというものである。

各メンバーが実際に行った調査地および調査対象は次のとおりである。

飯田悠哉：長野／外国人技能実習生

川越道子：兵庫／インドシナ難民

崔博憲：香川・広島（兵庫・岡山）／外国人技能実習生

坂梨健太：熊本／外国人技能実習生

瀬戸徐映里奈：兵庫／インドシナ難民

中田英樹：東京／日系人その他

村川淳：群馬／日系人

調査を通じて、特定の地域において外国人の多様化がいかに関し進展し、そこではどのような問題が生起しているのか、技能実習生、日系人、インドシナ難民が、それぞれどのようなネットワークや関係を形成しているのかについて一定の理解が得られた。複数の調査から、外国人労働者が、零細企業や地方の労働現場を支えていることや、外国人を「雇用の調整弁」とする流れと国内の若者・女性・高齢者を活用する流れが並行していることが看取できた。こうした労働市場における外国人と日本人の競合や共存についてメンバーが問題意識を共有し議論を交わすことができた点は大きな収穫であった。

もう1つは研究会の実施である。青山薫（神戸大学）、崎山政毅（立命館大学）、堀田義太郎（立命館大学）、松平尚也（AM ネット）らを招き、メンバーの中田英樹（明治学院大学）、川越道子（大阪大学）、崔博憲とともに7月8日に行った研究会では、震災、農業、性労働、地方、難民、金融危機など多様な観点から、現在の日本社会で外国人を生きるこ

との実情やその意味について活発な議論を行うことができた。8月30日、11月25日に実施した研究会では、メンバーの村川、坂梨、飯田らがこれまでに実施した調査の報告を行い、参加者との議論を通じて調査で得られた知見を洗練化することができた。

調査研究と研究会の実施以外でも、各メンバーが日本で働き生活する外国人や支援組織との関係を新たに構築することができた。これまでも関西圏を中心に各メンバーは在日外国人や外国人の支援ネットワークとのつながりを構築してきたが、本GCOE研究員であったメンバーの中田英樹や崔博憲がそれぞれ東京と広島に移動したことで、これまで以上に国内各地の外国人労働者や在日外国人や彼／彼女たちを支援するNGOや地域労組などとの関係を構築することができた。

2012年度は、こうした成果をまとめて書籍として出版し、社会化したいと考えている。

【通信欄】

- ・ワーキング・ペーパーの提出については、もう少しお待ちいただきたく存じます。
- ・ワーキング・ペーパーのホームページでの許諾については、現在、各メンバーの調査対象者への確認を行っておりますが、おそらく「許諾しない」ということになると思われます。

(研究代表者記入)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代ユニット <input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究		
経費	予算額	500(千円)	実績額 500 (千円)